

「わたしたちが 何で死なないかんと」
そのコトバに涙した友がいた
そのコトバは 冷酷で 無慈悲だ

その涙のわけを知ったわたしがつぶやく 「なんとかならないの」

「同和問題は昔のことじゃない。今も差別に泣いている人がいる」と
母は 肩を落とした

親子での学びがはじまる 新聞記事・講演会・人権学習・母の体験談

そして、父をまじえ食卓人権トークがにぎわう

インターネットに ひどいコトバが書かれているよ

近所の雑談で出てきた無知なるコトバ

学校の先生が熱く語る「ことば」

何よりも 当事者と言われている友が語る「ことば」
すべてが学びだ

何より出会いが学びを深めた

彼女は悲しげなひとみで 書きなぐられたコトバのことを話してくれた

わたしへの冷たいまなざしで投げつけられたコトバとかさなる
いつしかあふれ出す彼女の涙と 同じ涙がわたしのほほを伝う

「泣かないで」なんて言えなかった

泣いて泣いて流してしまいたい つらい出来事がそこにあることを

知ろうともしなかった自分が恥ずかしく思えた 悔恨の涙

「泣かないで」と 友がわたしに言う

「ごめんね」と わたしは友に言う

かぶりを振る友 つないだ手があたたかい 痛みの共感が人をつなぐ

友とわたしの涙のわけ この社会に差別というものがあり機能している

ならば その社会を変えていく「ことばの力」が わたしはほしい

だから 学ぶ

この地域にすくう差別の事実を知らずして 何をなくせばいいというのか

だから 学ぶ

友とともに学ぶ 父や母から学ぶ 本からも学ぶ

この社会のあたたかさや冷たさからも学ぶ

だから わたしは 学ぶ

